

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立久米中学校

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>夢や希望を持ち、学び合い、未来に生きる力を育む生徒の育成 (めざす生徒像) 将来への夢を持ち、実現させようと努力する生徒 ルールの大切さを知り、実行できる生徒 人権を尊重し、共に支え合い、高めあう生徒 身だしなみを整え、あいさつやそうじができ、時間を守る生徒</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>キャリア教育の充実 心が通う生徒指導の充実 わかる授業、学び合う授業の創造と学力の充実 人権教育の充実 健康・安全教育の充実 心を育てる家庭・地域との連携</p>
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】 全国 国語A、国語Bについては県平均と比べて正答率が高い。 国語Bでは、複数の資料を比較して読み、要旨を捉える問題の正答率が高い。(本校40、全国31.4) 国語Aでは、文脈の語句「ひとしくおれの方を見た」の意味を理解する問題に課題がある。(本校62.2、全国79.8) 数学A、数学Bについては県平均と比べて正答率がかなり高い。 数学Bでは、2つの偶数の和は偶数になる式 $2m + 2n$ を変形する問題の正答率が高い。(本校91.1、全国61.2) 数学Bでは、2つの数量の間の関係を説明する問題に課題がある。(本校53.3、全国62.3) 国語に関しては、9割程度が登場人物の心情や行動に注意して読み、内容が理解できているが、資料から適切な情報を得て 伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことに課題がある。 数学に関しては、式の変形・図形の証明・グラフの読み取りでは全国平均をかなり上回っているが、判断の理由や問題を解決する方法を説明することについて課題がある。 県 社会、数学については県平均と比べて正答率が高い。 国語、理科については県平均と比べて正答率が低い。 国語、社会、数学、理科について、基礎・活用ともに昨年度に比べて正答率が下がっているが、一昨年に比べると正答率は上がっている。 全教科を通じて、資料を活用したり根拠を明らかにして自分の考えを表現したりすることに課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 家庭での学習時間(1時間以上)の割合が県平均に比べて高く、昨年度よりも高い。 全く家庭学習をしない生徒の割合は県平均に比べて低いが0ではない。 人の気持ちが分かる人間や人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合が県平均に比べて高い。 自分にはよいところがあると思っている生徒の割合が県平均に比べて高い。 将来の夢や目標をもっている生徒の割合は県平均並みの約8割である。 地域の行事に参加している生徒の割合が県平均に比べてかなり高い。 平日にゲームをする時間が1時間以内の生徒の割合が県平均に比べて高く、昨年度よりも高くなっているが、4時間以上している生徒も0ではない。 テレビ等の視聴時間が1時間以内の生徒の割合が県平均に比べて高く、昨年度よりも高くなっているが、4時間以上視聴している生徒も0ではない。 読書時間(30分以上)の割合が県平均に比べて高く、学校図書館や地域の図書館を利用する生徒の割合も高い。 近所の人には会ったときはあいさつをしている生徒の割合が、県平均に比べてかなり高いが昨年度よりは低い。 授業の復習をしている生徒は、正答率が高い傾向にある。 学校の行事や授業以外で、自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある生徒は、正答率が高い傾向にある。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>読書好きの生徒が多く、朝読書も定着しているので文章を読み取る力は伸びてきていると考える。 協同学習の導入により、徐々にではあるが教室に「学び」が増えてきている。 文章で解答する問題に対してあきらめずに取り組もうとする生徒が増えてきている。 適切な資料を選び活用することが苦手な生徒が多い。 根拠を明らかにして自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。 国語・理科の学力をつけるための手立てを考え取り組む必要がある。 家庭学習の指導等に力を入れる必要がある。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>毎日の授業の中でどの教科でも協同学習による「学び合い」の時間を設ける。 どの教科でも必要な資料を選別して活用しながら考えをまとめる活動を大切にする。 どの教科でも筋道を立てて書いたり表現したりする機会を増やす。 どの教科でも授業の終わりに学習のまとめや振り返りを行う。 長期休業中や定期テスト前に補充学習の時間を設け学習習慣をつける。 国語では言語活動の指導に力を入れると共に伝えたいことを明確にしてわかりやすく書くことの指導を行う。 理科では実験・観察等グループ学習の場を増やし、実験・観察の能力向上に努める。 学力・学習状況調査、学力到達度確認テスト、たしかめテストの問題を授業で活用する。</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>協同学習を推進するために授業研究中心の校内研修を行い全員が授業公開をする。(2月までに) 学級委員会の活動を活性化して今以上に自主学習ノートを利用する。(学期ごと) 生徒へのアンケートの実施(2月) 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <p>全教科の平均正答率が県平均を上回る。 家庭学習をしない生徒を0にする。 将来の夢や目標をもっている生徒の割合を9割以上にする。</p>